

平成28年度事業報告書

特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂

1 事業の成果

平成28年度は、新潟県内の小・中学校、高等学校における防災教育推進・定着のサポートとして、以下の①から③を中心的に取り組んだ。

- ① 学校現場における教員の負担軽減と教育の質的向上、学校現場のニーズと地域性を考慮したオーダーメイド型のサポートとその内容の情報発信
- ② 現場ニーズに対応した継続可能なサポート体制の検討と提案
- ③ こども防災未来会議の課題改善と継続開催

- ① 模擬授業としての防災講座や授業の実施や教師と共に相談しながら考える授業づくり、資料提供、授業や講座実施後の効果分析、外部講師や学校所在地域や家庭とのコーディネート等を計56校に実施した。学校単独で継続していく前提のサポートより、地域・家庭、外部団体との連携による活動の提案や調整、継続のための仕組みづくりを望んでいる学校が多い。いざという時のための防災、知識や技能の習得を主目的とする防災教育ではなく、生きる力の育成を主に、人とかかわり、地域に学ぶ過程のデザインをサポートしていき、対話的で深い学びを実現する学習題材（課題）としての防災を推奨していく。

情報発信面ではふるさと新潟防災教育新聞の発行の他、当法人ホームページを平成29年1月に開設し、月平均8回程度の頻度で取組を発信している。アクセス数は1か月平均350件程度あり、ホームページからのサポート依頼も増加している。実践事例を知りたい現場のニーズに応えるべく、コンスタントな情報発信を継続していくとともに、完成したパンフレットを活用して当法人を後押しいただける会員募集も進めていく。

- ② 新潟市、長岡市、新発田市等の市域で防災教育に取り組む市町村を中心に、事業提案から試験的な実装・検証を行い、課題を整理したり、提案内容をよりニーズに対応したものに作り替えたりした。また、県内の教員と防災教育に取り組む・取り組みたい人同士がつながる場として、「防災教育をわいわい語る会」を設立した。会メンバーと新発田市の防災キャンプ事前研修会の企画を検討し、防災教育の概念や動向を知り、具体的な活動事例を紹介と体験する。当日の参加者が会メンバーと一緒に考える各学校の計画作りを組込み、主催の新発田市教育委員会及び同市の21小学校の参加者から高い評価を得ることができた。教員と共に提案するボトムアップ型の新しい研修会の実現を当法人がハブ役を担い、県内市町村を中心に拡げていきたい。
- ③ 防災を学んだ子どもの成果発表と交流、創造と承認の場「こども防災未来会議」は、初年度の課題であった時間管理、学校間交流のさせ方や未来宣言づくりの進め方について専門家や現職の教員と再検討した。各活動の事前準備と役割分担を明確にしたことにより、時間内に終了することができた。学校間交流と未来宣言づくりは、一人一人が考えたことを私の未来宣言として参加者全員が作成する形式をとった。考えた宣言を参加者同士で発表し合い、承認し合う

活動を加えたことで、子どもの意識と実効性を高められるよう工夫した。参加した子どもの感想から、「考えた宣言を必ず実行する。」という記述もあり、効果的だったと感じている。

次年度も防災教育の推進を切り口に、学校・地域・家庭が連携した共育社会の再建・創造に向け、サポート及び基盤づくりを推進していく。継続した情報発信と併せて県内外の教育や防災関連機関や団体等とも連携し、「地域全体で郷土愛を深め、よりよいふるさとの未来を創造する教育」として、新潟県の郷土教育化から、防災教育の文化“化”を目指す。

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(単位：千円)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
防災教育及び環境教育等の実践に関する学校等の支援事業	①ふるさと新潟防災教育推進事業(学校サポート) ※ふるさと新潟防災教育新聞の1,500部2回の作成、発送含む。	年度当初から年度末	①県内全域	3人	新潟県内の小・中学校、高等学校の教員及び児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	1,758
	②新潟市「防災教育」学校地域連携事業		②新潟市	3人		2,353
	③新発田市内の小学校の防災キャンプサポート		③新発田市	6人		789
	④その他委託事業		④県内全域	3人		494
防災教育及び環境教育等の実践に関する地域及び家庭の支援事業	①長岡市親子防災教室等運営委託業務	年度当初から年度末	①長岡市	2人	新潟県内外の未就学児、小・中学校、高等学校の教員及び児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	584
	②新潟県立白根高等学校における防災教育支援業務		②新潟市	2人		300
	③新潟市西蒲区西蒲 The ミッションサポート		③新潟市	2人		296
	④その他防災教室		④県内全域	3人		5

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
防災教育及び環境教育等に関するコーディネーション事業	防災教育コンテンツ作成事業 ※平成 29 年 4 月より防災教育コンテンツ学校サポート等業務委託	年度当初から年度末	長岡市	5 人	長岡市内の小・中学校の教員及び児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体 等	5,264
防災教育及び環境教育等の推進、並びに安心安全なまちづくり及び地域づくりに関する研修及び交流の場の提供事業	サークル 防災教育をわいわい語る会の運営	年度当初から年度末	県内全域	3 人	新潟県内の小・中学校の教職員及び防災・教育関係団体 等	10
防災教育及び環境教育等の推進、並びに安心安全なまちづくり及び地域づくりに関する交流・イベント事業	よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創るプロジェクト「こども防災未来会議 2016」の開催及び県内 3 箇所での「防災かべ新聞展示会」を実施	平成 28 年 12 月 17 日から平成 29 年 3 月 7 日まで	長岡震災アーカイブセンター 一きおくみらい、 新潟日報 メディアシップ 他	16 人	新潟県内の小・中学校の教職員と児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体 等	752

・防災教育及び環境教育等の実践に関する学校等の支援事業
<小学校の事例① 『家庭・地域・留学生と連携したワークショップ』 >

地域と学校ウェルカム参観日

「防災教育ワークショップ」～地域とつながる～

新潟市立笠木小学校

種別	地震
主催	新潟市立笠木小学校
日時	平成 28 年 9 月 30 日（金） 14：00～15：35
対象	新潟市立笠木小学校全校児童 39 名、保護者、地域の方々、留学生
目的	「学校・家庭・地域で取り組む防災」 ・自然災害から、みんなの命をみんなが守るために大切なことを考える

主な活動内容

- ・新潟県中越地震の体験談から災害が起きたときの様子を知る。
- ・学年別グループ学習（えんたくん使用）

低学年 家族とつながる防災（1年，2年）
平日の夜 20 時頃、自分が自宅にいる時に、強いゆれの地震が起こったら、どのようなことが起こり、何に困るのかを考え、どのような解決方法があるかを、家族と一緒に話し合う。

中学年 地域とつながる防災（3グループ）
地域の方を交えて、高齢者の人たちが地震が起こったときに困ること・不安ごとを聞き、地域の大人と協力して、解決できることを話し合う。



保護者や地域の方と一緒に考える



発表の様子（中学年）

高学年 世界とつながる防災（2グループ）
災害時に外国人を見かけたとき、自分にできることは何かを考える。

- ①災害時に外国人が困ることを知る・聞く
- ②困りごとを解決する方法を考える
- ③もしも、避難所で外国人を見かけたら、自分たちが実践することを決める

参加者の感想

- ・私は人と人とのつながりは普段からの協力にあると思います。普段から協力すればありがたいと言ったりできるからです。
- ・ぼくができることをおてつだいする。周りの人と協力し合うことも大事だと思いました。

臼井小学校の危険箇所を調べて、自分の命を守ろう！

新潟市立臼井中学校・臼井小学校

種 別	地震
主 催	新潟市「防災教育」学校地域連携事業
日 時	平成 28 年 10 月 13 日（木） 15：00～16：00
対 象	第 4 学年から 6 学年の児童及び臼井中学校 160 人
目 的	・地震発生時の危険予測能力を身に着け、自分の命を自分で守る行動について考える ・グループ活動を通じて、小・中学生の子供同士がコミュニケーションのとれる関係性を築く

主な活動内容

- ・地震による被害写真を見せて、地震が起こるとものが落ちてくる・倒れてくる・動いてくることを伝え、地震のときは、ものが落ちない・倒れない・動かない「3つのない場所」で自分の命を守ることを押さえる。
- ・小・中合同の縦割り班で①臼井小学校（屋内外）の危険箇所を調べる②その場所にいるときに地震が起きたら、どのようにして自分の命を守るのかを考える

※調べる場所を予め各班 2 箇所指定しておき、グループ活動用ワークシートに書きこむ。



どのようにして自分の命を守るか考える



小・中学生一緒に校内の危険箇所を調べる

- ・異なる場所を調べてきた班同士で、それぞれが調べてきた場所の危険箇所とその場所での身の守り方について、発表し合う。
- ・自分の命を守るポイント（学習のまとめ）
 - ①日頃から、自分の家の中や地域の危険箇所等を点検して、身を守る方法を考えること
 - ②地震や洪水災害時の行動について、日頃から家族と話し合い避難場所等を決めておくこと

<中学校の事例 ①『保育園・中学校合同防災訓練』>

～災害時に私たちが地域のためにできるコトって？～

新潟市立臼井中学校

種 別	洪水
主 催	新潟市「防災教育」学校地域連携事業
日 時	平成 28 年 10 月 12 日（水） 9：40～11：20
対 象	臼井中学校全校生徒 80 名、臼井保育園児・職員
目 的	<ul style="list-style-type: none">・ 水害等の発生時に、中学生が率先して保育園児の避難補助に当たり、安全の確保に努める姿勢を育む。・ 園児の避難補助及び園児との防災教室を通して、地域に貢献しようとする意識を高める。

主な活動内容

・ 想定

新潟地方を中心とするマグニチュード7クラスの地震が発生し、南区も震度6強の揺れに見舞われる。「信濃川堤防決壊の危険性がある」との情報が入り、臼井保育園児の、当校2階への避難を急がなければならない状況である。

- ・ 緊急地震速報が発令されたとの放送があり、その場で身の安全を確保（シェイクアウト訓練の実施）
- ・ 避難後全校生徒へ状況説明を行い、1、2年生は臼井保育園に向かい避難補助をしながら中学校へ誘導する。



避難補助をしながら中学校へ向かう



保育園児に身の守り方を指導する中学生

- ・ 1、2年生が保育園児の避難補助をしている間に3年生は「防災ダック」による保育園児指導準備
- ・ 3年生が講師となり、「災害から自分の命を守る方法を考えよう！」をテーマに防災ダックを使い、保育園児に身の守り方を指導

※「防災ダック」・・・動物のイラストで災害時の身の守り方を覚えるカード教材

濃煙内避難体験から自分の命を守る行動を考えよう

新潟市立白根北中学校

種別

火災

主催

新潟市南区総務課

日時

平成28年10月14日（金） 14:30～16:00

対象

全校生徒

目的

- ・火災時の濃煙内避難を体験し、煙の怖さと命を守る避難行動について学ぶ
- ・火災の発生時及び発生前等に中学生にできることを考える活動から、防災意識の向上及び生徒自身の主体性を高める。

主な活動内容

- ・火災時に最も命を落とす原因が、煙による一酸化炭素中毒であることをおさえる。
- ・消防士の方から、濃煙内の避難方法について指導してもらい、実際に体験する。



濃煙内避難体験



自分の命を守るためにできることを考える

- ・濃煙内の避難を体験した感想を発表。
- ・火災発生時、自分の命を自分で守るためにできること、日頃からできる火災予防策、または火災を発見したとき中学生にできることをグループごとに考える

参加者の感想

- ・煙の中をはじめ歩いて。身をかがめれば空気はあると言っていたけれど実際あまり空気はなかった。明かりが見えた時は安心した。実際に起こるとパニックになると思った。この経験を周りに伝え、「もしも」の時に備えたい。
- ・もし火災が起きたら今日習ったことと話したことを忘れずにすばやく行動し、命を守りたい。

気象庁ワークショップ

～経験したことのない大雨、その時どうする？～

新潟県立県央工業高等学校

種 別	洪水
主 催	新潟地方気象台
日 時	平成 28 年 9 月 5 日（月） 13：00～16：00
対 象	都市防災コース第 3 学年の生徒
目 的	<ul style="list-style-type: none">・大雨、洪水災害の基礎的な情報を知り、事前にできる予防策について考える・自然災害から自分の命を自分で守る方法を考える・学んだ知識を生かして、他人や地域のために高校生ができることを考える

主な活動内容

- ・大雨による災害の基礎知識を学び、台風接近に伴い、近日中に洪水災害が発生しそうな状況において、事前にできる準備についてグループごとに話し合う。
- ・ハザードマップの読み方と地域の災害リスク、防災気象情報と避難情報、災害時の避難行動を学び、災害時の避難先や避難経路を考える。



グループごとに避難行動や避難経路等を考える



話し合いの結果を発表

- ・平成 16 年新潟福島豪雨災害時と平成 23 年新潟福島豪雨災害時の避難者数を比較し、「避難できない人の心理」についておさえる。
- ・学んだことを生かして、今日から実践する災害に備えた心構えを考え、自分の命を守れなければ家族の命を守ったり、地域に貢献することはできないこと、事前に家族とも災害時の行動や備えについて話し合っておくことをおさえる。

今日から実践～私の宣言シート～より

- ・災害時に地域の人のために声掛けをできるようにしたい。そのために今日からニュースや気象情報をよく見たいと思います。
- ・人のために何事も協力しながら生活していきたい。そのために今日から知識をつけたりコミュニケーションを取り合います。

<研修会の事例 >

新発田市防災キャンプ事前研修会

新発田市教育委員会中央公民館
新発田市教育委員会学校教育課

種 別	防災キャンプ
主 催	新発田市教育委員会中央公民館・新発田市教育委員会学校教育課
日 時	平成 29 年 5 月 15 日（月）9:00～ 16 日（火）11:00（一泊二日）
対 象	新発田市内全 21 小学校教員
目 的	<ul style="list-style-type: none">・活断層帯である楡形山脈断層帯を有する本市において、防災キャンプ（防災教育）を実施する意義について理解を図る・実践事例紹介及び体験活動から様々な活動プランを知り、防災キャンプ実施に見通しを持つ。・防災教育に取り組んでいる教員や防災の専門家を交えて、各学校で取り組む防災キャンプの計画を検討し、作成する。

主な活動内容※わいわい語る会とともに実施

- ・防災教育に取り組んでいる教員から、防災教育の可能性や事例紹介を行った。
- ・非常食の体験、新発田市の災害備蓄状況や家庭の備えを考える活動。
- ・グループに分かれ、防災教育に取り組んでいる教員や防災の専門家と気軽に話をしながら、各校の防災キャンプのねらい・活動計画案の検討を行った。
- ・各グループから発表を行い、再度計画案の見直しや質問の時間を設けた。



グループワークで活動計画の意見交換



地域巡検の体験

- ・宿泊体験プログラムの体験として、サバイバルクッキング、避難所の準備としてグッズ作りなどを行った。
- ・2 日目に地域巡検の体験、マップ作りを行った。

参加者の感想

- ・防災教育のあり方から学ばせていただきました。防災の方法だけでなく、それを通して子どもたちの心を育てるということに大変共感しました。子どもたちの内発的な思いを大切にしたい防災キャンプにしたいと思います。

親子防災教室 ぐんぐん『防災とらの巻』



種別	防災
主催	長岡市危機管理防災本部
日時	平成28年4月～平成29年3月（毎月1回継続開催）
対象	未就園児、保護者
目的	子育ての駅を会場に親子向けの防災教室を行う。

主な活動内容

- ・防災とらの巻の歌に合わせて、災害時の対処行動を動物の行動に置き換え、実施。（年間を通じ、毎回繰り返し実施）
- ・防災に関心が低い利用者も気軽に参加できるよう毎回テーマを変え、成長段階に応じた遊びやクイズ等を取り入れ、楽しみながら防災への意識を高めるよう工夫。



非常食の試食



プチ避難訓練（地震編）

- ・実施内容…「プチ避難訓練（地震編）」「身近なもので作れる防災グッズ」「防災応急手当（誤飲・誤えん編）」「非常時の備えを知る」「非常食について学ぶ（試食体験付き）」等

参加者の感想

- ・安全な場所にボーサイダールーのイラストがあることを初めて知った。こどもははじめ見ているだけだったけど、徐々に一緒に体を動かし楽しく訓練できた。
- ・引っ越してきたので、中越地震を経験していません。その分防災意識をより持っておきたいと思いました。
- ・津波防災〇×クイズは、映像を見ながらの説明だったのでわかりやすかった。30 cmの津波でも立ってられないなんてはじめて知りました。
- ・吐かせ方の本を読んでもわからなかったもので、実際に見ることができてよかったです。

西蒲 The ミッション

～僕らが描く未来予想図 I～



種 別	地域創生
主 催	新潟市西蒲区役所
日 時	平成 28 年 8 月 9 日（火）、18 日（木）、19 日（金）、22 日（月）、23 日（火） 5 日間
対 象	西蒲区内の小学校 5、6 年生 19 名
目 的	将来の西蒲区を担う子どもたちから、区のまち歩きを通して、区の魅力をアップさせる方策や今ある魅力の活かし方を提案してもらう

主な活動内容

- ・区長より「西蒲区未来創造隊員」として任命。
- ・西蒲区の魅力をグループで発表し合い、魅力をアップさせるために行ってみたい所を決める。
- ・決めた場所へ 2 日間に分けて見学、取材、体験し、それぞれの良い所や解決したいことなどを取材シートにまとめる
- ・グループに分かれ、更に魅力をアップさせる提案を考え、区長、区役所職員、地域の方に対しプレゼンテーションを行う。



魅力アップ大作戦のプレゼンテーション



まち歩きの様子

主な提案内容

- ・ゆるキャラを使った商店街の活性化
 - ・角田浜でトライアスロン
 - ・西蒲役所のパンフレット置き場の配置、工夫
 - ・西蒲区のお米試食会、PR 動画の配信
 - ・角田浜でイベント選挙開催 など
- ※「角田岬灯台からの流しそうめん」

が平成 29 年 7 月 22 日（土）に実現

参加者の感想

- ・初めて会った人とグループになっていろんな話をするのはやったことがなかったので楽しかった。
- ・この活動がなかったら、このたくさんのみりよくを見つけられなかったかもしれない。参加して本当に良かった。

・防災教育及び環境教育等の実践に関するコーディネーション事業

学校現場における教員の負担軽減を目的とし、まちづくり市民研究所第1期市民研究員が政策提言を行った「みんなでつくる防災教育体制」のひとつ「防災玉手箱」の制作及び学校の相談窓口業務を長岡市より受託した。

学校で防災教育を実践する際に参考になるプログラムや語り部の紹介、参考資料をまとめたコンテンツの作成を行うとともに、学校のニーズに合わせた外部講師とのコーディネートや防災講座の計画作りのサポートなどを行った。(学校訪問・講座実践 合計36回)

長岡市防災玉手箱の紹介とモデル校が取り組んだ活動からわかったことなどをまとめた新聞を発表するイベントを平成29年3月11日に実施した。

今後、学校のヒアリングを行う人材、講師・語り部となる人材の育成も進めていく。

<防災玉手箱のコンテンツ制作> ※デザインは長岡造形大学学生



外箱



バインダー（プログラム・語り部・グッズ作りなどを紹介）



災害の高さの実寸シール



手提げバッグ

<イベントの実施>

イベント名：家族で体験！サバイバルクッキング

主催：NPO法人ふるさと未来創造堂、長岡市

協力：長岡市立日越小学校、(公社)中越防災安全推進機構、中越市民防災安全士会、

長岡地域振興局健康福祉環境部長岡保健所

後援：長岡市教育委員会

日時：平成29年3月11日（土曜日）10時から13時30分まで

会場：ながおか市民防災センター2階研修室1・2



チラシ



防災玉手箱を使った防災教育の成果発表（左上）

防災玉手箱掲載講師による防災グッズ作り（右上）

防災玉手箱参考資料にあるサバイバルクッキングの体験（左下）

・防災教育及び環境教育等の推進、並びに安心安全なまちづくり及び地域づくりに関する研修及び交流の場の提供事業

「防災教育をわいわい語る会」を設立。事務局として運営をサポート。



2017年2月15日会合の様子



2017年5月2日会合 新発田市防災キャンプ研修会
サポートに向けた打合せ

・防災教育及び環境教育等の推進、並びに安心安全なまちづくり及び地域づくりに関する交流・イベント事業

＜こども防災未来会議 2016 の実施＞

主な活動内容

- ・「防災かべ新聞コンクール」では、県内で防災について学んできた子どもたちが、これまでの学びの過程や学んだことを今後どのように生かしていくのか等を発表。



「防災かべ新聞コンクール」発表会



「えんたくん」でのディスカッション実施

- ・「こども防災未来宣言ディスカッション」では、学校混合グループでの交流・意見交換を実施。自然災害から自分・家族・地域、それぞれが命を守るために「私が大切にすること・今日から私にできること」を“私のこども防災未来宣言”としてまとめ、発表し、発信する場とした。

参加者の感想

【児童・生徒】

- ・他の小学校の人と仲良くなれた。家族との会話をもっと大切にしたいと思った
- ・グループで発表し合ったりして、みんなで災害が起きた時、どんな風に動くのか、日ごろからどんなことをすればよいのか確認し合うことができた。

【防災専門家】

- ・異なる視点で「防災」を学んできた他校の児童生徒同士が交流することであらたな気付きにつながる。「防災」というテーマを通じて交流し、よりよい未来を創出していく貴重な機会である。

資料1) サポート実績一覧

学校(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校)及び教育委員会等

○防災教育等に関する打合せ・相談、講師、研修会等

68校 延べ200回以上

長岡市立日越小学校	長岡市立阪之上小学校	長岡市立下川西小学校
新潟大学教育学部附属長岡小学校	長岡市立浦瀬小学校	長岡市立日吉小学校
長岡市立西中学校	長岡市立宮内中学校	長岡市立江陽中学校
小千谷市立東山小学校	見附市立見附小学校	見附市立今町小学校
新潟市立青山小学校	新潟市立味方小学校	新潟市立茨曾根小学校
新潟市立臼井小学校	新潟市立大鷲小学校	新潟市立大通小学校
新潟市立荻川小学校	新潟市立笠木小学校	新潟市立小須戸中学校
新潟市立関屋小学校	新潟市立中之口東小学校	新潟市立中之口西小学校
新潟市立根岸小学校	新潟市立白山小学校	新潟市立結小学校
新潟市立鎧郷小学校	新潟市立茨曾根小学校	新潟市立庄瀬小学校
新潟市立新飯田小学校	新潟市立臼井小学校	新潟市立内野小学校
新潟市立西内野小学校	新潟市立内野小・中学校希望が丘分校	
新潟市立岩室小学校	新潟市立和納小学校	新潟市立新津第一小学校
新潟市立新津第三小学校	新潟市立岩室中学校	新潟市立白南中学校
新潟市立新津第一中学校	新潟市立臼井中学校	新潟市立白根第一中学校
新潟市立白根北中学校	新潟市立月潟中学校	新潟市立中之口中学校
新潟市立新津第二中学校	新潟市立西川中学校	新潟市立白新中学校
新潟市西特別支援学校	新発田市立二葉小学校	新発田市立七葉小学校
新発田市立米倉小学校	新発田市立猿橋小学校	新発田市立外ヶ輪小学校
新発田市立本田小学校	新発田市立川東小学校	新発田市立住吉小学校
新発田市立佐々木小学校	上越市立黒田小学校	上越市立美守小学校
魚沼市立六日町小学校	南魚沼市立浦佐小学校	妙高市立妙高小学校
新潟県立白根高等学校	新潟県立塩沢商工高等学校	新潟県立県央工業高等学校
新潟市教育委員会 鳥屋野地区・関屋地区・中央公民館(防災キャンプ打合せ・講座講師)		
新潟市教育委員会 白根地区公民館(中学生ボランティア講座の相談・講座講師)		
新潟市教育委員会・新発田市教育委員会(研修会企画・講師)、長岡市教育委員会(研修会相談・講師)		
燕市教育委員会(研修会相談・講座講師)	にいがたファシリテーション授業研究会(講座講師)	他

地域

○地域防災や防災教育の相談、講師、イベント、研修会等 **17団体 延べ40回以上**

- 長岡市中之島コミュニティセンター(洪水災害についての語り部紹介・資料提供)
- 新潟市 関屋・浜浦・有明台コミュニティ協議会(研修会講師)
- 新潟市小須戸コミュニティ協議会(地域と中学校合同防災学習・訓練の打合せ・講座講師)
- 新潟市南区地域教育コーディネーター(コーディネーター研修会打合せ・講座講師)
- 国土交通省新潟地方気象台(高校での防災教育サポート相談・講座講師)
- (公社)中越防災安全推進機構(中越市民防災安全大学・防災教育コーディネーター養成塾 講座講師) 他

資料2) メディア等事業紹介内容一覧

◎新聞掲載 (抜粋)



「子ども防災未来会議2016」
 新潟日報 平成28年12月18日(日)
 平成29年1月29日(日)
 読売新聞 平成29年1月11日(水)



「長岡市防災玉手箱」
 ・長岡市立日越小学校
 玉手箱活用授業実践
 新潟日報
 平成29年3月7日(火)





- ・南区防災訓練（中越防災安全推進機構より委託）
白根高校での実践
新潟日報 平成28年11月11日（金）
平成29年3月4日（土）

- ・新発田市防災キャンプ（講師）
新潟日報 平成29年6月26日（月）



◎ラジオ出演

FMポート 2月27日（月）～3月3日（金）

6:30～6:50「ECHIGORIAN えちごりあん」出演